



アイデアをすぐに商品作りに反映できるのが1点ものの手作りの良さ。「大切な人のために使う気持ちで」と仕上げていくデザイン、使い勝手の良さで、少しずつ「dai:zu」のファンが増えていくようです。子育てママさん8人の趣味から始まった手作りショップの活動は、また新しいファンを生み始めています。



手芸小物製作・直売グループ「dai:zu」の代表を務めています。もともと「私は何もできないので、せめて連絡役でも…」というのが代表に決まった理由なのだそうです。

5年前、大雪山が真正面に見える光景に惹かれて町内に自宅を建てました。夫の英登さん(34)は、自称「ハード・ロッカー」。旭山動物園で話題の「エゾシカの森」を担当している学芸員(飼育展示係)です。北工学園環境福祉専門学校(進化台)敷地内の「ふれあいの郷」1階に広さ約30畳の和洋室があります。ここは「遊びの広場」。就学前の子供たちが自由に遊べる空間。だれでも出入りすることができるよう開放されています。

長女の澄玲ちゃん(スッタン)が自由に遊べる場所として利用しているうち、子育てママが意気投合。「私たちの作ったものが売れる1日限定ショップのような場所があったらいいよね」。そんな井戸端会議から活動が始まりました。現在7人が集っています。

町内在住の写真家、飯塚達史さんのアトリエ「フォトシーズン」(東11号)のスペースを会場に、年4回のショップ開催が軌道に乗ってきました。

3月、今年1回目の2日間限定ショップを開きました。今回は、6月11日(金)の開催予定。本番は間近に迫っています。子供たちのわんぱくぶりに手を焼きながら、編み物やミシンかけに余念がありません。1点ものの新作も着々と数がそろってきました。1回のショップで50アイテム以上の手作り商品が会場に並びます。

コットンカリネンを使ったナチュラルテイストの手芸小物が中心。帆布を使ったデザインバッグ、麻ひものバッグ、保冷ポトルカバー、ウエストポーチ兼ショルダーポーチ、パインを手作りする時に使う発酵用マット、手作りの洋服…など。もちろんリクエストにも応じます。使いやすいヒントが思い浮かぶと、その場で形に仕上げていきます。その機動性の良さが手作りの良さでもあり、ファンが増える大切な要素でもあります。

ナチュラルな風合いの手作り商品



子供たちが遊びまわる中での作業です



アトリエ「フォトシーズン」のショップ会場

地元で作った手づくりパンなども大好評



親子で入園式にお出かけ。長女のスッタンが幼児センターに新入園しました

おくやま ゆきこ 奥山 由紀子さん/主婦の手づくりグループ「dai:zu」代表/東倉沼/☎090-6212-9465

札幌市出身。札幌市立札幌新川高校卒。札幌市内で会社勤めをしながらアマチュア劇団に参加後、2年間本格的な「劇団風の子北海道」(札幌)の団員として活動していました。旭川市旭山動物園学芸員(飼育展示係)の夫、英登(ひでと)さん(34)とインターネットのチャットで知り合い、旅好きで意気投合して結婚。長女(5つ)と3人家族。